

令和6年度 ふくしま学力調査結果資料

1 調査の概要

(1) 調査日時 令和6年4月24日(水)～5月10日(金)

※ 各学校が期間内の任意の日に実施

(2) 調査内容

- 小学4～6年 国語、算数
- 中学1・2年 国語、数学
- 生活習慣や学習環境等の質問調査

(3) 調査対象 (人)

【小学校】

	小4年国語	小4年算数	小5年国語	小5年算数	小6年国語	小6年算数
福島市	1,989	1,988	2,009	2,010	1,780	1,780
福島県	13,418	13,418	13,672	13,674	12,715	12,712

【中学校】

	中1年国語	中1年数学	中2年国語	中2年数学
福島市	1,882	1,883	1,772	1,770
福島県	13,073	13,073	12,980	12,976

2 教科に関する調査の結果（本市と県の平均正答率及び学力レベルの比較）

【小学校】		本市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比較 (ア-イ)	学力レベル 比較 (ア-イ)	学力の伸び (前年度比)
4年生	国語	64.2	6-C	63.8	6-C	+0.4	同じ	
	算数	63.4	5-C	61.8	5-C	+1.6	同じ	
5年生	国語	62.5	7-C	61.9	6-A	+0.6	+1層	+2層
	算数	59.2	5-A	58.6	5-A	+0.6	同じ	+1層
6年生	国語	57.8	7-B	57.0	7-B	+0.8	同じ	±0層
	算数	57.8	6-A	56.2	6-B	+1.6	+1層	+1層
【中学校】		本市 (ア)		福島県 (イ)		平均正答率 比較 (ア-イ)	学力レベル 比較 (ア-イ)	学力の伸び (前年度比)
1年生	国語	61.7	8-B	60.5	8-C	+1.2	+1層	+2層
	数学	57.2	7-C	56.2	7-C	+1.0	同じ	+1層
2年生	国語	62.7	8-B	61.8	8-B	+0.9	同じ	+1層
	数学	54.5	7-A	55.6	7-A	-1.1	同じ	+2層

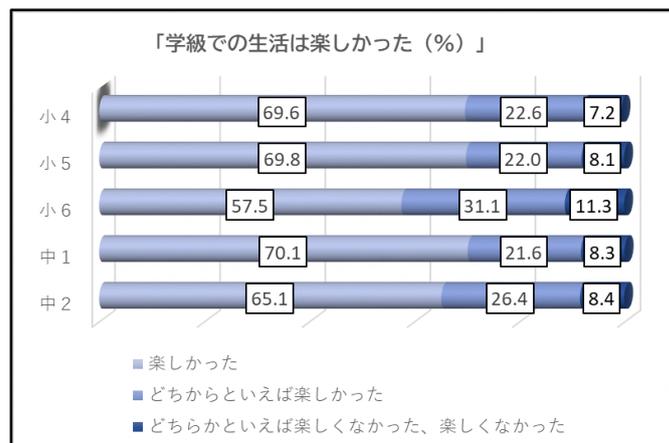
3 本市の内容別結果（○県を上回っている主な内容 ▲課題となる主な内容）

<p>小4年 国語</p>	<p>○文の構成（主語・述語を理解すること） ○文を読み返し、常体・敬体の不統一を正し、よりよい文にすること ▲文脈に沿った漢字の正しい読みや漢字のへんや部首を理解すること ▲国語辞典に載っていた複数の意味のうち、文脈に即したものを選択すること</p>	<p>小4年 算数</p>	<p>○1/10の位までの小数の減法を計算すること ○未知の数量を□を用いて表すことで、問題の場面を式に表すこと ▲球の切り口が円になることへの理解 ▲3位数×2位数の乗法を計算すること</p>
<p>小5年 国語</p>	<p>○慣用句の意味を理解し、適切に使うこと ○文の構成（主語・述語）を理解すること ▲同訓異字の漢字を文脈に即して正しく使うこと ▲指示語の役割を理解すること</p>	<p>小5年 算数</p>	<p>○2つの折れ線グラフを対比させ、グラフの特徴や傾向について考察すること ○仮分数の読み方や意味についての理解 ▲空間の中で3つの要素で表した物の位置を把握すること ▲180度より大きい角を分度器を用いて測ること</p>
<p>小6年 国語</p>	<p>○修飾・被修飾の関係を理解すること ○文脈に即して漢字を正しく書くこと ▲物語の登場人物の心情を読み取ること ▲敬語（謙譲語）の種類を正しく理解し適切に使うこと</p>	<p>小6年 算数</p>	<p>○小数の表し方と数の大きさを関連付けて考えること ○日常の事象に関する問題を、単位量あたりの考えを用いて解決すること ▲分数と小数、整数の相互関係を理解し、分数を小数で表すこと ▲容積の意味やその求め方について理解し、あわせて1L=1000cm³の関係を理解すること</p>
<p>中1年 国語</p>	<p>○文脈に即して漢字を正しく読むこと ○二字熟語の構成を理解すること ▲敬語（謙譲語）の種類を正しく理解し適切に使うこと ▲資料を根拠にしなが、自分の考えを明確に書くこと</p>	<p>中1年 数学</p>	<p>○比例の関係をj用いて、問題を解決すること ○グラフから必要な情報を読み取り、事象に対応させて解釈すること ▲小数及び分数の四則計算をjすること ▲起こり得る場合を順序よく整理して調べるjこと</p>
<p>中2年 国語</p>	<p>○敬語を理解し正しく使うjこと ○ことわざの意味を理解し、適切に使うjこと ▲文脈に即して漢字を正しく書くjこと ▲文脈に即して助詞の意味を理解するjこと</p>	<p>中2年 数学</p>	<p>○範囲の意味の理解 ○図形を回転移動するj方法の理解 ▲自然数を因数分解するjこと ▲一元一次方程式を解くjこと</p>

児童・生徒質問調査の主な結果

○学級での生活について

「(昨年度) 学級での生活は楽しかったですか」の設問に対し、全学年とも90%程度の児童生徒が「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と回答しており、本市の児童生徒が楽しく生活できている様子が伺えます。引き続き、「楽しかった」の割合が増えていくよう支援するとともに、「楽しかった」の割合が他の学年と比べて低かった小学校6年生においても、充実した学級での生活を送れるよう働きかけていきます。

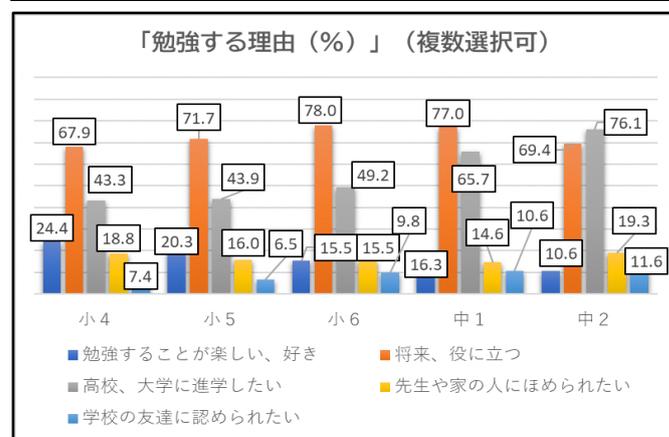


○勉強する理由について

本市の児童生徒が勉強する理由として回答(複数回答)した割合が高い項目は、「将来、役に立つから」や「高校や大学に進学したいから」で昨年度と同様でした。「高校や大学に進学したいから」については、学年が上がるごとにその割合が高くなります。

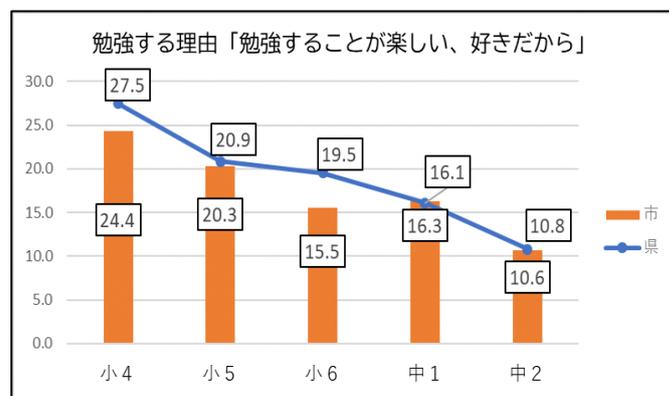
中学校2年生が「先生や家の人にほめられたい」と回答した割合が19.3%と、県と比較して4.1ポイント高いという特徴が見られました。

また、学年が上がるにつれ「勉強することが楽しい、好きだから」を選択する児童生徒の割合が低下するという、例年同様の傾向が見られました。県との比較では、小学校4年生では3.1ポイント、6年生で4.0ポイント、県の回答を下回りました。

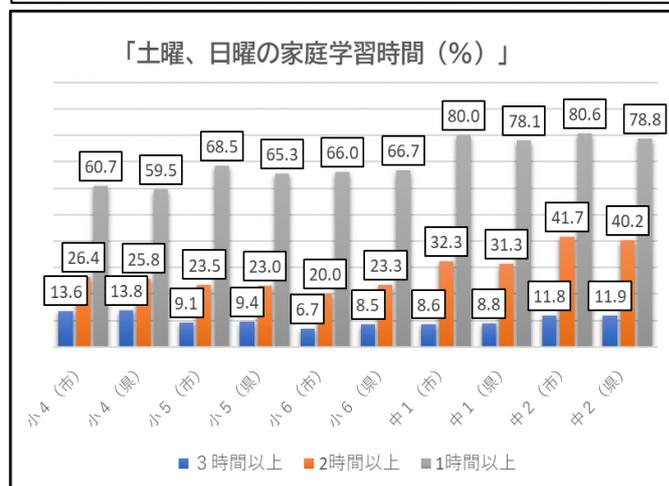


○土曜、日曜など学校が休みの日の学習時間について

休日に家庭で1時間以上学習する児童生徒の割合は、小学生4年生が60%、5・6年生が65%程度、中学生が80%程度、2時間以上と回答したのは、小学生が20~25%程度、中学校1年生が32.3%、2年生が41.7%であり、おおむね県と同程度の結果でした。また、「1時間未満」の回答の割合は、小学校6年生(県33.0%、本市33.8%)を除くすべて学年で県平均を下回りました。



この設問から、本市の児童生徒は、家庭学習の習慣がほぼ身に付いているといえます。引き続き学校と家庭が連携しながら、子どもの発達段階に合わせた家庭学習の量的確保と質的改善が図れるよう、継続して指導していくことが大切です。

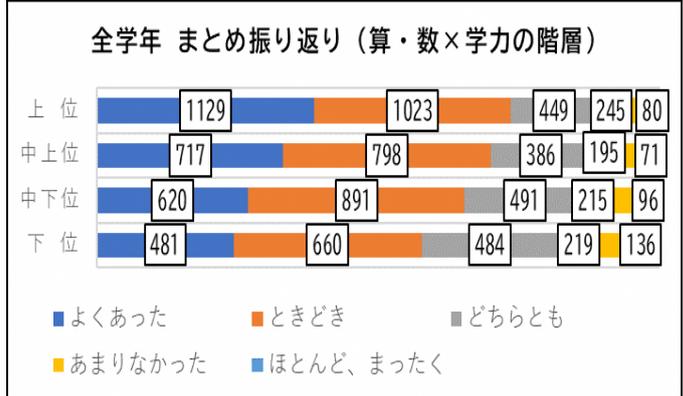
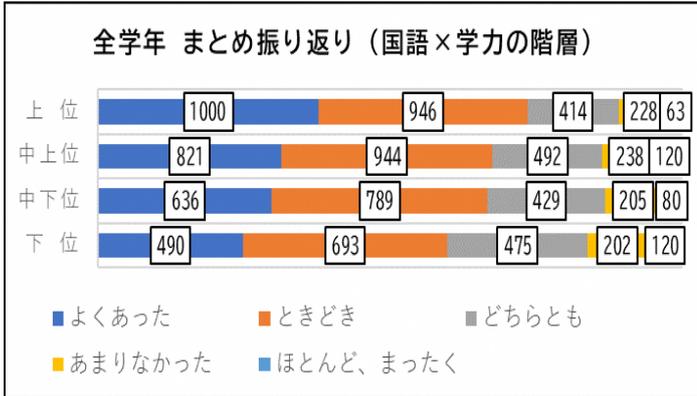
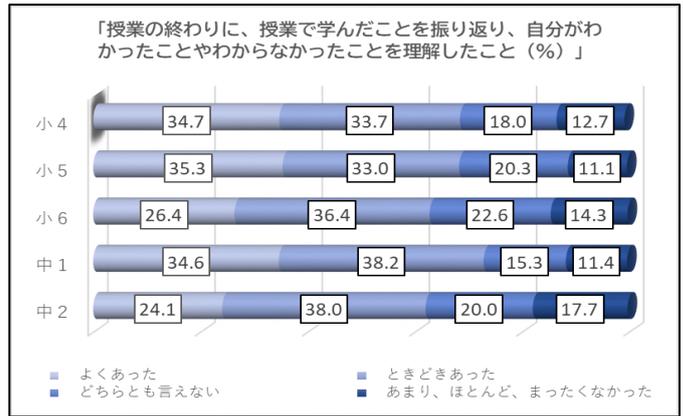


○「授業の振り返り」について

「授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したことがあるか」の設問に対し、小学校4、5年生、中学校1年生で35%程度、小学校6年生、中学校2年生で25%程度の児童生徒が「よくあった」と回答しています。

この設問に対する回答と、国語、算数・数学の正答率との間に相関関係が認められました。

(左下：国語との相関、右下：算・数との相関)



※各グラフの縦軸は正答率を25%ずつに分割した階層

これらのデータから、各教科の授業の終末において「振り返り」の時間を確実に確保し、「わかったこと」「できるようになったこと」などを子どもたちが自覚する機会を設けることで、達成感や成就感を味わわせること、さらに、わからなかったことや不十分なことを明確にして次の学習につなげることなどをおして、一人一人に「学ぶ楽しさ」を実感させることの重要性が確認できます。

○「タブレット端末の家庭への持ち帰り」について

「学校のタブレット等を家に持ち帰って宿題も含めて学習に利用したことはどれくらいあるか」という質問に対する回答状況(市・県)は、右下のグラフのとおりです。

「毎日」、「週2～4回」と回答した児童生徒の割合の合計は、学年が上がるごとに増加する傾向がありますが、中学校2年生では持ち帰りの頻度が減少しています。また、中学校2年生を除くすべての学年で、県の平均を大きく上回っており、本市においてタブレット端末の家庭への持ち帰りが進んでいる状況がわかります。今後も、タブレット端末の家庭学習での積極的な使用を推進するとともに、さらに成果につながる活用方法等について指導していくことが大切です。家庭においても、適切な使用方法や使用時間等についてのお声掛けをお願いいたします。

